

## 「Do you know 能？」第六弾

～ガイドなら一度は観ておきたい能楽～

2019年1月12日実施 JGA 第一支部研修 終了レポート

2019年1月12日（土）、独立行政法人日本芸術文化振興会 国立能楽堂のご協力をいただき、能楽講義・能楽普及公演鑑賞・能舞台体験という三部構成で表題の研修を実施、34名（正会員27名、非会員5名、運営委員2名）が参加しました。



講師のシテ方金春流女性能楽師 柏崎真由子師が、現存する世界最古と言われる能楽の歴史、シテ方・ワキ方・囃子方・狂言方の4つで構成される舞台、役割ごとに派生した複数の流派や流儀、5種類に分類される演目、面、衣装などについて、パワーポイントを使用的確



にわかり易く説明してくださいました。また、本日の演目「東北」の地謡や台詞の一部の解説と節回しも教わり全員で合唱。朗々と謡う先生にならって私たちも謡い上げました！

ランチは希望者が館内の食堂「向日葵」で羽衣弁当をいただきながら、お能と睡魔の関係やお仕事の話などそれぞれのテーブルで盛り上がり、楽しいひとときを過ごしました。

第二部は能楽鑑賞です。歌人の梅内美華子氏による解説で、演目の背景などの知識をいただいて本番となりました。演目は狂言「鐘の音」、能「東北」です。狂言は金と鐘を間違えて鎌倉に鐘を探しに来る太郎冠者という親しみやすい演目、東北は恋多き歌人八景式部のお話です。シテの踊りは厳かかつ優雅で美しく、幽玄の舞とはまさにこの事かと思われました。



最後に第三部の能舞台体験です。研修生用ですが檜舞台です。白足袋に履き替え、舞台裏探検、そして腕・指も含む基本姿勢を学び、すり足で舞台に進んで行きました。両手で1cm位の丸を作って目を覆い、面を着けた時の視界の狭さを体験します。自ずとすり足になっていくことがわかりました。また、希望者は実際にシテがつける衣装も着用させていただきました。大きく張り出す袖で踊りが大きくより優雅になります。小袖の刺繍の美しさも間近に鑑賞しました。ものによっては一千万円以上と聞いてドキリです。実際に能を鑑賞し舞台上で衣装を手にし、勢い疑問が湧き上がり、質問の手が次から次へと上がります。柏崎先生の親しみやすいお人柄もあるでしょう。一つ一つにサクサクと誠実にお答えくださり、大満足の1日となりました。

いつものことながら、国立能楽堂の皆さまには研修を通して多大なご協力をいただき、大変お世話になりました。

2019年がスタートしました。ラグビーワールドカップの開催、来年の東京オリンピックに向けての関連ツアーなど、観光の質と種類も今まで以上に多岐に亘るのではないのでしょうか。能楽にお連れする機会も増えるのではないかと期待しています。

